



第106号



## 会長あいさつ

66回生 茶園 美香

会員のみなさま方にはますますご健勝で新しい「丁酉（ひのととり）」の年をお迎えのことと存じます。酉という文字は古来より酒を造る器を意味しており、成長成熟を表し、縁起がよいことを意味しているそうです。このことから、会員のみなさまにとって、それぞれが取り組んでこられたことが実を結び、穏やかで幸せな一年になりますことを祈念しております。

一方、昨年は熊本や鳥取中部における地震、また大規模台風の東北地方への上陸、この冬における東北、北海道での大雪など、大型化する自然災害の発生に不安を感じる1年でした。今年こそは災害のない年であってほしいと願っております。また海外でも自然災害をはじめ人の暮らしを揺るがすような出来事が発生しました。とりわけイスラム国などによるテロ事件の頻発は、難民の増加など世界的に大きな問題であり、映像を見るたびに心が痛むニュースです。一日も早く安全で、平和な世界になることを願わずにはられません。

2018年に慶應看護100年を迎えるにあたり、今年はその準備を本格的、かつ具体的に進めていく年の幕開けとなりました。新年にあたり、これまでの慶應看護100年の歩みから学びながらも、新しい時代の変化に対応できる看護力を育成し、慶應看護としての新たな歴史の一步を踏み出すための取り組みを会員の皆様とともに進めていきたいと心新たにしております。

さて、昨年6月以降、今年度の事業計画に沿って活動を進めております。

まず、慶應看護100年記念事業活動の寄付活動は、昨年の5月に目標額（2000万円）を達成しましたが、その後もご協力いただき総額20,415,000円（2016年11月30日）となりました。改めてお礼申し上げます。前号でもお知らせしましたが、紅梅会は現在、「慶應義塾大学病院新病院棟建設事業募金」に協力しております。ぜひ、こちらもお支援いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

昨年10月16日の連合三田会では「慶應看護100年記念事業」の一環として、看護医療学部と協力をして「慶應看護100年のあゆみ」および「服装史」をポスターおよび年代別人型パネルで展示を行いました。医学部の卒業生らが来場され、興味深く見学をしていただき、交流することができました。

「慶應看護100年記念行事」は、2018年の5月12日（予定）の開催に向けて看護医療学部と協力して進めております。現在、看護医療学部に記念事業企画委員会が設置され、その中に、紅梅会会員の方にも委員会メンバーとして参画していただく予定です。記念行事には、多くのみなさまに参加していただけるような場所の検討、さらに紅梅会総会の開催日時も検討しております。会員の皆様には、いずれにもご参加いただきますよう、今からスケジュールに予定として記載していただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、今後考えていかなければならないこととして、紅梅会費の納入率向上対策が挙げられます。紅梅会が更に発展するためには資金が必要です。ここおよそ10年は、収入よりも支出が多い状況にあります。その理由は、年会費（終身会費）納入者が少ないことにあります。卒業生のみなさまにとって魅力ある紅梅会、会費を払いやすくする方法などの検討が必要です。会員の皆様の中で良いアイデアがありましたら、ぜひご提案いただきますようお願いいたします。

## 春号の主な内容

- ◆ 2017年度 第74回 総会のご案内 … 2ページ
- ◆ 慶應義塾大学病院のトピックス … 3ページ
- ◆ 看護医療学部だより … 4ページ
- ◆ 学部生の活動 … 5ページ
- ◆ 世代をつなぐ [Link age] 活躍する同窓生 … 5ページ
- ◆ 慶應病院で活躍する専門領域看護師 … 6ページ
- ◆ 同窓会報告 … 7ページ
- ◆ 連合三田会報告 … 7ページ
- ◆ 研修会報告 … 8ページ

会報発送者数3306名（2017年●月●日現在）

# 第74回 総会のご案内

会員みなさま、お元気にお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。第74回紅梅会総会のご案内をいたします。今年も例年通り「母の日」に開催いたします。東京ガーデンパレスホテルにご協力をいただき、準備をすすめております。

今回の講演は趣向を変えて「幸せ」をキーワードに企画いたしました。みなさまは「幸せ」とはどのように感じていますでしょうか。個人の「幸せ」や人間としての「幸せ」、社会の中での「幸せ」、その主観的な「幸福」を統計的・体系的に紐解き、研究してこられた前野先生をお招きしてご講演いただきます。これからの人生に役立てていただければ幸いです。

会員みなさまが、学年の垣根を越えて楽しく和やかに交流を深めていただける場を作るように準備に励んでおります。どうぞ、ご友人や先輩、後輩の方々をお誘い合わせの上、ご参加いただけますように心からお待ちしております。  
(準備委員長 84回生 江河 都美)



**日時**

**2017年5月14日(日)**

午前10時30分開会 午後2時閉会 (午前10時開場)

**場所**

**東京ガーデンパレス <会場>高千穂**

〒113-0034 東京都文京区湯島1-7-5

(御茶ノ水駅より徒歩5分)

聖橋を渡って東京医科歯科大学の裏)

TEL 03-3813-6231・6237

http://www.hotelgp-tokyo.com

**会費**

**8,500円**

会場への道順は  
同封の地図を参照して下さい。

## 申し込みについて

\* 総会の出欠は、同封のはがきで**4月24日(月)**までに返信し、同封の振込用紙で**5月1日(月)**までに入金をお願いします。

\* 付き添いの方が参加される場合は席をご用意します。

また、**実費(6,500円)**で付き添いの方の食事のご用意も承りますので、同封のはがきの通信欄にその旨を記載し、入金をお願いします。

\* 駐車場割引・宿泊割引があります。直接、東京ガーデンパレスへお問い合わせください。

## プログラム

1. 開会の言葉
2. 会長挨拶
3. 報告事項 看護医療学部現状報告  
大学病院現状報告  
役委員会報告
4. 審議事項
5. 質疑応答
6. 新旧役員挨拶
7. 講演  
テーマ  
『幸せのメカニズム～幸せの四つ葉のクローバー～』  
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長・教授 前野隆司
8. 会員代表挨拶・乾杯  
会食
9. 閉会の言葉

## 講演者紹介

**前野 隆司 氏** 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科委員長・教授

ロボットや脳科学の研究から、人間の幸福のメカニズムの研究へと視点を広げ、主観的な幸福度を統計的・客観的に体系化する研究を行っている。

研究分野は、ヒューマンマシンインターフェースから、幸福学、感動学、共感学、イノベーション教育、コミュニケーションデザインなど幅広い。

著書に『幸せのメカニズム 実践・幸福学入門(講談社現代新書)』、『脳はなぜ「心」を作ったのかー「私」の謎を解く受動意識仮説(筑摩書房)』、『錯覚する脳ー「おいしい」も「痛い」も幻想だった(ちくま文庫)』、『「死ぬのが怖い」とはどういうことか(講談社)』などがある。

# 慶應義塾大学病院の トピックス

## 1. 慶應看護 100 年記念事業の紹介

2018 年慶應看護は創設 100 年を迎えます。看護部は看護医療学部と連携して看護学生実習から臨床看護師へと継続した臨床看護師の育成をスタートします。

人、物（場所）、金、情報を有効かつ効率的に活用し、看護師が成長できる仕組みを構築していく予定です。

取り組みの柱になるのは教育研究センター（仮）の設置で、設置目的は3つです。

1. 医療とケアの質向上に資する人材育成
2. 医療とケアの質を高める実践研究の推進
3. 他施設・地域社会への貢献

2016 年 11 月より看護医療学部と看護部の人事交流における橋渡しを行う役割として、教育担当師長（短 2 回生 杉浦 なおみ）を新たに配置しました。更に 2017 年 4 月より臨床指導ナースと教育担当看護師が、看護医療学部の基礎教育に参画できるように活動体制を整備します。

教育担当師長は、看護師の現任教育管理を担いながら、実践研究の推進を図り、教育研究マインドをもつ先導看護師の育成を進めます。

また教育担当看護師は、子育て中の短時間勤務者を対象にしています。本事業を通じて子育て中の看護師のキャリア発達が遂げられるように、一つのキャリアパスとして可視化したいと考えています。

2020 年には、教育研究センター（仮）を拠点に、他施設、地域の医療者を対象とした研修プログラムを企画・実施します。教育研究センター（仮）の設置により、看護医療学部、医学部、薬学部の学生や、新採用の看護師、初期研修医がいつでも学べる教育シミュレーションラボ施設の機能の充実と拡大を目指しています。次の慶應看護 150 年に向けて、時代の変化に対応できる臨床看護師を育成していきます。

（看護次長 短 1 回生 片岡 美樹）



教育指導室スタッフ  
前列左から、看護次長、  
教育担当師長、主任



小松 浩子教授から看護研究の  
講義を受ける臨床指導ナース研修生



プリセプター研修での  
臨床指導ナースの活動場面

## 2. 一緒に慶應の看護を創っていきましょう

看護部は今まで受け継いできた「独立自尊」の精神を継承しながら、若い力と、経験から築き上げた豊かな知識や人間性を活用し、更なる発展を目指しています。今年度より、特定機能病院の機能強化に向けた専門看護師や看護管理者の育成に取り組むため、休職枠を拡大し進学を支援しています。また、即戦力となる経験者採用も行うことにしました。自身の経験や知識を慶應看護に活かし時代の変化に対応しながら看護部と一緒に構築しましょう。

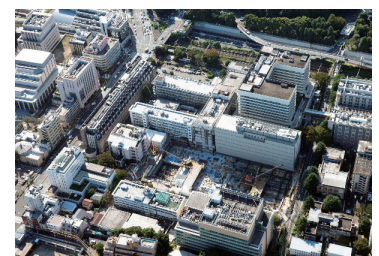
次に、12 月 1 日から主任に昇格する看護医療学部の卒業生を紹介します。新病院棟開設時にその活躍が大いに期待される人材です。

（看護次長 86 回生 田原 祥子）

## 3. 2016 年 12 月、看護医療学部卒業生から主任が誕生しました

私は 2007 年に就職し、一般消化器外科病棟、GICU で重症・集中ケアを学び、救急外来でキャリアを積みました。現在、新病院棟開設に伴い、慶應看護も変革の時期です。この様な時期に、慶應看護のマネジメントに携われる事は大変光栄です。経験、知識共に未熟ですが、先輩方にご指導頂き、柔軟な発想と真摯な態度で励みたいと思います。そして、看護医療学部の理念となる、「新しい看護活動の場の想像」、「様々な学問との交流を通じた看護・医療の発展」を念頭に、卒業生・在学生の代表として、慶應看護の発展に貢献していきます。

（学 3 回生 渡邊 開）



新病院棟建設状況  
（2016 年 10 月 24 日撮影）



YAGAMI

歴史に学び、「今を考え」  
「有り難い」ことの実現を提案します。

株式会社 八神製作所

本社 / 〒460-8318 名古屋市中区千代田2-16-30 TEL (052) 251-6671 (代)  
URL <http://www.yagami.co.jp/>

## 実りの多かった秋 教育・研究の輪の拡がり

学生たちは三田祭を終え、臨地実習や演習に戻って参りました。4年生はそれぞれの進路が決まり、落ち着いた表情で学生生活最後のグループワークに臨んでいます。秋学期は三田祭をはじめ多くの塾行事があり活気に満ちています。11月18・19日にはSFC全体で取り組んでいるOpen Research Forum (ORF) が開催されました。看護ベストプラクティスの活動、高齢者看護や国際看護の教育・研究について活発に交流が行われ、世代を超えて看護ケアのすばらしさを発信することができました。今年のORFでは、「慶應看護100年記念事業」の一環として、慶應看護服装史についてパネル展示を行いました。「戦前の貴重な写真であり、慶應義塾にとって大切な資料です。」など多くの参加者より関心を示して頂きました。今後、2018年の慶應看護100年に向けて、記念事業を進めて参ります。このように記念事業を推進できますのは、紅梅会による募金事業の賜物でございます。改めて、心より感謝申し上げます。



2017年1月21日(土)には、慶應看護100年記念講演会 第一回「慶應看護の古を辿る」を行います。講演内容は、次の通りです。

どうぞ皆さまご参加頂ければ幸いに存じます。

(看護医療学部長 小松 浩子)

### 慶應看護100年記念講演会 第一回「慶應看護の古を辿る」

**日時** 2017年1月21日(土) 午後1時～3時 開場12時30分

**場所** 慶應義塾大学三田キャンパス 東館8階 東館ホール

**西澤 直子 君** (慶應義塾福澤研究センター教授)  
「福澤先生の女性論」

**白井 堯子 君** (千葉県立衛生短期大学名誉教授/慶應義塾福澤研究センター客員所員)  
「ナイチンゲールと同時代人—J.S. ミル、そして福沢諭吉—」

慶應義塾赤倉山荘 [www.sanshikai.jp/akakura/index.html](http://www.sanshikai.jp/akakura/index.html)

## 赤倉山荘に泊まってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ

赤倉山荘  
電話:0255-87-3900 FAX:0255-87-3905  
e-mail: ak-ko@hyper.ocn.ne.jp

赤倉山荘管理事務局(三四会内)  
電話:03-3359-0227 FAX:03-3358-0664  
e-mail: info@sanshikai.jp

## CISCA の活動

学生団体 CISCA は医学部、看護医療学部、薬学部の学生で構成されています。「医療系学生に新たな価値観を！」の理念に基づき、3つの学部が合同で活動しています。異なる学部の学生が共に活動することで、相互理解を深め、広い視野を養います。

今年の CISCA の活動としては 8 月に横浜市内の幼稚園に行かせていただき、「ワニさんと一緒に歯磨きしよう！」をテーマとして 3～5 歳の園児を対象に歯磨き指導を行いました。内容としてはまず簡単な歯磨きに関するクイズを出題し、解説によって正しい知識をもってもらえるようにしました。次に折り紙などを使い、歯ブラシとオリジナルのワニさんを作ってもらい、ワニさんの歯を磨いてあげることで歯磨きのポイントを練習し、家でも同じようにできるようにしました。1 テーブル 4 名の園児に対して学生が一人ずつつくことで全体的にスムーズに歯磨き指導を行うことができ、園児たちには最初から最後まで積極的に楽しんで参加してもらうことができました。また折り紙で歯ブラシとワニさんを作る際には、年齢によってハサミを使い始めたばかりの子たちがあり、発達段階に応じた指導を行う大切さを学びました。

こちらの幼稚園では昨年度は手洗い指導を行い、訪問は今回で 2 回目となりました。このように毎回園児たちが楽しく健康になれることを目指してテーマや企画内容を一から考えて活動しています。今後も学生が主体となり、必要とされるボランティア活動を続けていきたいと考えています。

(看護医療学部 3 年 鶴見 香苗)



世代をつなぐ

「Link age」

## 活躍する同窓生

### 英語が苦手、それでもカリフォルニア州看護師に 学 1 回生 原田 衣里子

私は卒業後、聖路加国際病院に就職しました。全く予想していなかった救命救急センターへの配属に戸惑いましたが、仕事が始まるとみるみるその奥深さに魅せられました。産休・育休を経て、特別病室、循環器準集中治療室へと異動、その後夫の仕事の都合で止む無く退職し、2011年に渡米しました。

サンフランシスコの郊外に住み始め、しばらくは日々の生活で精一杯。生活が落ち着いたところで、何かしら看護に関わっていたいという思いから、カリフォルニア州の看護師資格 (Registered Nurse) 取得を目指して準備を始めました。英語が苦手でテキストを読み進めるのも一苦労。出産と育児の合間に少しずつ勉強し、2015年に資格試験に合格しました。資格を得たものの、住んでいるエリアは看護師の職が人気で就職難、英語もまだまだ難あり。これからどうしようかと考えている時に、日本人の家庭医が開業しているクリニックで非常勤看護師として採用され、現在に至ります。

クリニックの診療は、内科、外科、小児科、整形外科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、精神科、健康診断と幅広く、看護師としてこれまでの経験を生かしながら仕事をし、さらに日々新しい経験をさせてもらっていると感じています。医療知識はもちろんのこと、アメリカの医療保険制度に関する知識、英語でのコミュニケーション能力も必要です。また、仕事とは別に、市の Community Emergency Response Team という災害対策チームにボランティアで参加しています。

学生時代に受けた教育が今につながっており、卒業後も先生方や同窓生とのつながりに支えられていることに感謝しています。今後どこでどのような形になるか分かりませんが、生涯看護に関わっていきたいという思いを胸に、これからも道を模索していきたいです。



## 「乳がん看護認定看護師」という仕事

短4回生 黒澤 真紀

腫瘍センターに所属していた頃、再発治療中の乳がん患者さんに「看護師さんと話をすると落ち着きます、まだまだ頑張ろうと思います。」と言われました。その時から私はがん患者さんを支える仕事を続けたいと思いました。そして、どうせならきちんと専門的知識を身に付け理論に基づいた看護をしたい、これまでの経験を生かしたいと考え、乳がん看護認定看護師の資格取得を決意しました。



黒澤さんがモデルを務めた  
2016年度「看護の日」ポスター

認定看護の資格をとりたいたと上司に相談したところ「進学までの間、病棟の看護師や患者のニーズを把握した方が良い」との助言を受け、10年ぶりに病棟異動しました。2人の小学生の娘を育てながら、深夜勤の前や子どもが学校に行っている間に進学のための勉強をしました。無事認定教育課程に進学でき、半年間の研修を受け、2013年に乳がん看護認定看護師の資格を得て今に至ります。

現在は外科外来に所属し、乳腺外来のある日は乳腺チームの医師と連携して患者さんの意思決定支援、整容やリンパ浮腫に対する助言やケア、治療中の生活指導、メンタルケアなどを行っています。患者さんから「相談にのってくださってありがとう」「いつもいてくださるから安心です」と言われると、患者さんを支える仕事ができているのだと実感します。また医師から患者さんの意思決定支援を依頼されるとチームの一員としての自分の存在意義を確信します。

慶應義塾大学病院は地域がん診療連携拠点病院です。そのような環境の中、私は院内のがん看護の質向上のために研修の企画開催にも参加しています。

現在がん人口は増え続けており、特に乳がんは女性の14人に1人がかかる病気と言われています。患者さんががんになってもその人らしく生きられるよう、私はこの仕事を続けたいと思います。

## リエゾンナースとして働き始めて

学2回生 木村 範子

私は2016年5月から、リエゾン精神看護専門看護師として勤務しています。先輩リエゾンナースに支えられながら、精神科医と精神保健福祉士と共に、精神科リエゾンチームの一員として組織横断的に活動をしています。

私は大学生の頃、看護師が看護を通して様々な感情体験をしながらも、自分の感情に気づき、それを手がかりに患者理解を深めていくことを学び、精神看護に関心を持ちました。入社し、実際に看護の現場に立つと、慢性期や終末期の患者さんと関わりながら、投げやりだったり、落ちこんでいたり、不安が強かったり、怒っていたりする患者さんのセルフケアを支援していくことの難しさを実感しました。また、多忙を極めるなかで何人も患者さんを看取り、疲弊していく先輩看護師に対して、患者さんだけでなく仲間である看護師もケアできる存在になりたいとも思いました。そのため、患者さんと看護師両方の心のケアができるリエゾンナースを目指したいという思いから大学院に進学し、精神科病棟での経験を経て、現在に至ります。新米ママでもあるので、時間短縮勤務をしながら奮闘中の毎日です。

日々の活動内容としては、身体疾患をもつ患者さんやご家族の精神的なケア、患者さんの状態に応じた向精神薬の使用方法などを病棟看護師と相談し、看護実践の後方サポート的な役割を担っています。最近は高齢の患者さんも多く、一見すると症状が似ている「せん妄」「認知症」「抑うつ」を適切にアセスメントし、それぞれの患者さんに合ったケアを工夫できるよう意識して取り組んでいます。リエゾンナースとしても母親としても、まだまだ未熟ですが、限られた時間を有効活用し、自己研鑽を重ねていきたいと考えています。



## 看護医療学部一期生の第一回同窓会

学1回生 東 麗華 (旧姓 水谷)

2016年9月に看護医療学部一期生の同窓会を行いました。卒業からおおよそ10年が経ち、卒業生42人と教職員7名、そして同級生の中にはお母さんになっている人も多く、子供たちもたくさん集まり、賑やかな同窓会になりました。

私は、看護医療学部を卒業後、慶應義塾大学病院に就職をしたので、病院内や臨床実習などで同級生や先生方と会う機会もあり、卒業してからさほど時間が経っているように感じてはおりませんでした。しかし、卒業以来初めて会う方も多く、お互いの近況報告がとても新鮮でした。病院で働いている人、教員となり後輩を育てている人、医療分野で起業をしている人もいて、幅広く様々な場面で活躍をしていることに「一期生らしさ」を感じました。

また、皆にすぐに辞めると思われていた私が、変わらず看護師を続けていることに驚いていたのが印象的でした。学生の頃は決して真面目な学生ではなかったかもしれませんが、講義や実習を通して熱心に関わってくれた先生方や、一緒に悩み、寄り添ってくれた仲間がいたからこそ「今」があるのだと思います。

幹事5人が隅々まで準備をしてくれたため、とても楽しく充実した同窓会になりました。次に会う時には皆も私もっと変わっているのだろうか、成長できているのだろうかと期待しながら、でもやっぱり変わらず、皆は皆のままであることを思いながら第2回の同窓会も楽しみにしています。



## 連合三田会報告

### 慶應看護服装史の展示

2016年10月16日、日吉キャンパスにて「連合三田会」が開催されました。本年度は、紅梅会の役員、看護医療学部の教員、同窓生が独立館205教室での「慶應看護100年」の展示のために集いました。

看護医療学部では、紅梅会の皆様からのご寄付をもとに、「慶應看護100年記念事業」をすすめており、今回の連合三田会では、歴史編纂の成果のひとつとして慶應看護服装史をまとめパネルで紹介しました。

アーカイブ事業として、創設期から現在までの資料や卒業アルバム等を収集してきました。この事業のひとつとして、服装史というテーマで慶應看護の歴史を紐解いているところです。北里柴三郎先生は、「病院の良否を左右するもの一つは、看護婦である」という考えを示し、1918年から入学資格には、品行方正なることを規定し、慶應看護の教育が始まりました。第5回卒業アルバムには、「白衣清香 護病者」という北島多一養成所長の言葉が残されています。

襟章や校章などにも歴史をみることができます。1957年には、平和・博愛の章として紅梅会の会章がつけられました。会章の裏は、小泉信三塾長から贈られた言葉、「愛スルモノハ強シ」が刻まれています。服装史を通して慶應看護の100年を振り返ると、改めて慶應看護が積み重ねてきた歴史の重さや、そこに込められている思いの深さを感じ、これを継承しさらに発展させていこうという気持ちが湧きたちます。

来年の連合三田会では、本年に引き続き「慶應看護100年」に関連した展示を予定しています。2018年の100周年に向けて紅梅会の皆様の「待ち合わせ場所」として集い、慶應看護の過去、現在、未来を互いに語り合い、さらなる発展の機会になることを願っています。

(慶應看護100年史編纂委員会：小池智子(委員長81回)、安田恵美子(副委員長81回)、

中尾真由美、田村紀子、朴順禮、山内慶太) (84回生 藤井 千枝子)



## 当院で勤務経験のある看護師を 随時募集しています

「看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)」レベルⅡ以上の方、大歓迎です。

もう一度私たちと一緒にキャリアを積み重ねていきませんか。



慶應義塾大学病院

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地

TEL: 03-5363-3719 (看護部直通)



# 第39回 研修会報告

## 「チーム医療にも役立つ最強医療コミュニケーション なんでもやねん力」

2016年10月28日、信濃町キャンパスの孝養舎202教室にて、第39回研修会が行われました。医療従事者や学生をはじめとして43名の方にご参加いただきました。講師のWマコトのお二人（中山真氏・中原誠氏）は吉本総合芸術学院ご出身で、日本初の漫才式セミナー講師として、笑いを活用したコミュニケーション術をテーマに、幅広くご活躍されています。

「笑いはコミュニケーションの第0歩である」という講義は、終始笑いが絶えず、会場は活気にあふれていました。第一線で活躍されているお笑い芸人の方のコミュニケーション術を例にとり、隣の席の人と向かい合って大笑いする、相手が話した話題で相手が一番返してほしいと思われる一言を相手に返すなどの体験を通して、自然と笑いのもつ力を実感することになりました。「楽しいから笑いが起こるのではなく、笑うから楽しいと人は感じる」という内容が特に印象的でした。私は以前患者さんから「あなたが笑顔で話しかけてくれるから、私は笑顔になれる」と声をかけていただいたことがあります。笑いがコミュニケーションにおける潤滑剤になっていると納得した瞬間でした。講義では、「なんでもやねん力」がコミュニケーションを円滑にするというお話もありました。これは、物事をなぜ？ どうして？ と考える問題解決に必要な力のことです。講義から普段のコミュニケーションに活かすヒントを多くいただき、笑いの力を使ってコミュニケーションを促進させ、より良い医療につなげたいと思いました。

Wマコトのお二人の更なるご活躍を祈念するとともに、参加者の皆様、共催いただいたニプロのご担当者の皆様、広報活動にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。次年度もより多くの卒業生、在校生、教職員の方にご参加いただき、研修会を活性化させていきたいと考えています。

(研修委員 学8回生 濱田 有紀)



## 紅梅会事務局より

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。

平成25年版名簿に残数があります。購入ご希望の方は電話またはFAXで事務局までお申し込みください。

(68回生 浅田 頼子)

事務局在室時間 月・木曜日 13時～17時(8月は夏休みのため閉室) 直通電話・FAX 03-3341-8116

## 2017年後期「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生も特選塾員となるできるようになり、今までに256名の方が紅梅会推薦により特選塾員とされました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして多彩な塾員間との交流ができるようになります。また、慶應義塾の図書館利用証も取得できます。

紅梅会推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は「氏名・ふりがな・生年月日・現住所・電話番号・勤務先・回生または卒業年月」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい(8月31日締め切り)。

今回申込みをされた方は11月末頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

## 訃報

助23回生 宮澤 秀子	2015年12月28日
23回生、助21回生 上野 吉江(旧姓野村)	2016年10月16日
33回生 多和田純子(旧姓小林)	2015年11月1日
33回生 長張けさと	2016年6月17日
34回生 柳原 香子	2016年7月26日
34回生 宮地 陽子(旧姓日比野)	2016年9月29日
39回生 村井 敬子	2016年11月7日
40回生 四万村ミワ子(旧姓長岡)	2016年8月3日
短5回生 旭 恵子	2015年4月29日
	2017年1月31日現在

## 編集後記

慶應看護100年に向けて様々な活動が行われています。紅梅会での活動を通して、看護医療学部時代に多くの学びを得ることができたのは、諸先輩方のおかげであったことを再認識し、感謝の気持ちでいっぱいです。

編集委員会では、皆さまのご活躍をお伝えするとともに、会員の方々からの近況報告、同窓会報告、紅梅会へのご要望等をお待ちしております。よろしくお願い致します。

編集委員長 学1回生 葛城 建史